

「大学公開講座受講のすすめ」

桜美林大学 教授

(財) 日本生涯学習総合研究所 理事

全国大学開放推進機構 理事長

瀬沼克彰

大学の社会的役割は、学生の教育、研究に加えて第3の役割として、地域貢献としての大学公開講座があります。欧米では、100年、200年の歴史を持っていますが、わが国は、20年、30年の歴史しかありません。しかし、全国のほとんどの大学が、何らかの形で公開講座を実施しています。

地域貢献としての大学公開講座は、どこの大学でも実施していますが、大学によって、毎年沢山の講座を提供しているところと、1つか2つしか開催しないというところもあり、大学によって異なっています。大学公開講座は一般の大学の授業と違い、1学期で5回とか10回とか回数も少なく、多くの人に理解し易いように工夫されています。以下に、講座の現状と魅力、活用法について説明してみます。一人でも多くの方に利用してもらいたいと思います。

(1) 大学公開講座の現状

わが国の大学公開講座は、文部科学省の調査によると、国公立全体で講座数は平成8年の9,299から、平成17年には23,395になり、受講者数は65万人から111万人に増加しています。

私立大学の公開講座の実態については、当財団が「大学公開講座の実態調査」を行いました。ここで、把握できた興味深い数字として、受講料が有料か無料かということがあります。その割合は有料33.6%、一部有料28.5%、すべて無料30.3%となっています。近年、地方自治体が提供する講座も財政悪化の折でもあり、有料化が増えています。これから数年すると、無料の大学は少なくなっていると思われます。

大学公開講座研究会が、平成19年に会員大学を対象にして、「公開講座の実態調査」を行いました。詳しい内容については、同調査に譲りますが、この調

査により運営組織、講座内容、経費、受講料、問題点などがわかりました。

調査で興味深かったのは、受講者の要望によってサテライト教室が、急激に増えていることです。10年前にはほとんど存在していませんでしたが、この間に数多くの大学で開設したことです。一般学生は多少立地が悪くても、学位を取得するために通学してきますが、成人、シニアは交通の便が良くないと受講してくれないということへの対策です。また、受講者にとって評判の良い事柄は、図書館、食堂などの利用があげられていて、サービスの向上が求められています。

(2) 公開講座の魅力

公開講座が魅力的にならないと、受講者が来てくれません。魅力的な講座にするためには、いくつかの要素が考えられます。一つは利用者のニーズに対応していくことです。ニーズは大別すると不易と流行の二つに分けられます。前者は時代に関係なく大学として、建学の精神にかかわる講座とか、歴史と伝統からみてどうしても開講しなければならない講座です。後者は時代の風とか流行によって、めまぐるしく変わっていくからそれに乗って講座を提供していかなければなりません。現時点でみると、ニーズの強いジャンルは、健康系、心理・癒し系、語学系、実技系などになります。

具体的にいうと、健康系ではヨガ、太極拳、合唱、ウォーキング、心理系では臨床、カウンセリング、感情コントロール、笑い、語学系では英会話入門、韓国語、中国語などがあります。実技系では油絵、書道、文章力などが人気があります。人気のある講座で、ある程度の数字を確保しておいて、マイナーであっても大学としてやらなければならない講座に、挑戦するという姿勢が大事です。公開講座は地域貢献といっても赤字は出せないのです。

もう一つは講師にかかわる事柄です。多くの講師は、学内にしても、学外にいても誠実に関わっていくことは間違いありません。ただ、若い学生を教えるのと、成人、シニアを教えるのは、かなり教授法が違ってきます。多くの講師は成人、シニアを教える技術を持っていません。短期間で教授法を修得してもらおうといいですが、そうでない場合は受講者離れがあってもしかたがありません。成人、シニアはいくら学識が高くても、教え方の上手でない講師のものは逃げ出してしまいます。

これとは反対に、どうしてこれほど人気が高いのかというカリスマ講師も、

どこの大学にも数人はいます。この人達の人気により受講者が多く来てくれて、講座全体を引っ張ってくれるということが起こります。

(3) 公開講座の利用法

これまでみてきたように、大学公開講座はカルチャーセンターや地方自治体の講座に比べて、受講者にとって魅力的なことがいくつもあります。そこで、以下では活用法についてのヒントを述べてみることにします。

最初に大事にするのは、気軽に受講してみたい気持ちは持ってもらうことです。ともすると、大学は一般の人にとって馴染みの場所ではありません。敷居が高いというか、校門から入って教室までの道のりが長いので、こうした物理的障壁を少なくして、気軽に来てもらうようにしなければなりません。多様なプログラムの中から、好みのものを選んでもらうのなら、講師は熱心に担当科目を教えてください。最初は難しかったり理解しにくくても、何回か通っていくうちにわかるようになりますし、また、わかるように教えてください。講師失格です。そうした失格の講師は例外的にしか存在しません。多くの講師は熱心な人で、教授法も身につけていて、授業内容を楽しいものにしてくれます。

大学公開講座の持つ優れた点は、最終的には正規授業への導入でもあるということです。学問的学びにしても、専門知識や技術の修得にしても、公開講座は手っ取り早い入り口です。ここで、初歩的内容や学び方を修得し、半年とか1年間経験したら、それぞれの目的に応じて、次の大学利用法を考えるのが良いと思います。例えば心理学にしても哲学にしても、自分のレベルに応じて学部を選ぶか大学院を選ぶか決めます。どちらを選択するにしても、最初から正規コースを選ぶのは賢明ではありません。

少しでもゆとりがあれば科目履修生や聴講生になって、授業や演習を覗いてみて指導教授とも何回か会って、自分に合っているかを確かめます。そうしているうちに、だんだんと十分にやれるという気持ちになってきたら、正規コースに入学し、修士、博士をねらうといいと思います。公開講座は大学という組織の入り口とみて活用することを勧めます。